

ありがとうの感謝を込めて

# 一朱銀、一分銀、言いたい放題

新潟貨幣研究会  
日本近代銀貨研究会  
八木 明男

一朱銀と一分銀の収集を通じて、いろいろな方々とお会いする事が出来ました。聞き覚えのない方々から年賀状が届き、名刺ホルダーで調べてみれば、あ！あの時〇〇古銭会に遊びに行った時に声をかけて頂き、一朱銀の話で盛り上がった方だ！と思います。一朱銀ありがとう。

また一朱銀、一分銀を通じてお世話になった内外貨幣研究会会長の故田宮氏には、北は北海道、南は九州まで各地古銭会に連れて行って頂き、各地のコイン収集家の方々と交流をさせて頂きました。九州でご馳走になった「ふく料理」の美味しかった事この上なし！一朱銀、一分銀ありがとう。

さらに茨城貨幣研究会会員でもある栃木県の近代銀貨の専門家鈴木氏と書信館出版社長の後藤氏に推薦して頂き、末席に加えていただいた日本近代銀貨研究会では、近代銀貨の先生方と酒席に同席させて頂く機会がありました。ハテ何を話そうかと思索する間もなく、右短川常系明治一分銀の話で話題を開いて頂き、一気に緊張がほぐれ盛り上がりましてしまいました。一分銀ありがとう。

いろいろな方々といろいろな話をさせて頂き、友人関係を築く事が出来ました。その結果、人

生がすごく豊かになったと思っています。

ですからこの辺で人生を豊かにしてくれたい一朱銀、一分銀に恩返しをしなければ！と思いつき、今回は一分銀がやや中心になるけれど、一朱銀、一分銀に感謝を込めて言いたい放題の読み物を記しました。この文章を書くに当たって、文献的な裏付けがある場合は、なるべく引用文献を記載しますが、記載なき場合は、文献的な裏付けがないものとお考えください。ホントはもっと早く投稿できる予定でしたが、昨年（二〇二四年）に放送されたアニメ「鬼滅の刃 柱稽古編」を見て、コミック全巻を大人買いしたら、見事にハマってしまい何度も読み直した結果、投稿が大幅に遅れてしまいました。この七月には続編の劇場公開も始まり、さらに投稿が遅れてしまいました。見出しもあやからせてもらいました。吾峠先生、ごめんなさい！お借りますます！

## 言いたい放題①

### 分朱銀の呼吸 一の型「額縁」

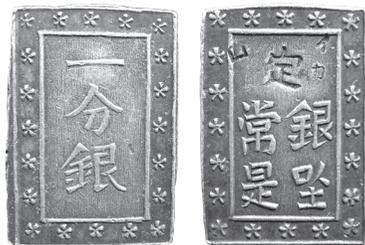
二〇年以上前の話ですが、月刊「収集」の誌上入札の中に「天保一分銀 Tr型 額縁」という

出品があり、面T型の額縁品なら珍しいと思いきまりました。ホルダーには確かに誰かが書いた「額縁」との記入がありました。実際の一分銀には額縁どころか額になる枠が全くない物でした。では一分銀の「額」とはそもそも何物なのでしょう。

一般的な額縁品とは、南鐮銀、一朱銀、分金や朱金など、表裏に丸い額星が縦横に枠を作るように刻印されており、その丸い額星が全て切れる事なく全部刻印されているものを「額縁品」と言います。丁寧に作っていますし、それぞれ初期に作られたものと推測されています。見た目も良く、存在も少ないことから、大手フロアオークションに出品された時など、銭種に限らず時々とんでもない値段になる事があります。

さて、このように額星がある場合には額縁もわかりやすいのですが、一分銀の場合には額星がありません。ではどんなものを「額縁品」と言うかといえ、一分銀の表裏四辺に枠のついている物を「額縁」と言っています。

初期の天保一分銀の製作方法を推測してみます。一般的に分朱金銀類は、刻印に対し大きさを合わせた金銀片を用意しておき、その金銀片を刻



天保一分銀の「額縁」

表左側の枠の外には、銀片を切り分ける線と線の間余裕巾（M字の間のあぜ道）が見える

印の間に挟んでハンマーで叩くことによって、分朱金銀を作成します。このために大きさを合わせた金銀の金属片をたくさん用意する必要があります。

一分銀の場合ですと、薄く伸ばした銀板に、あらかじめ一分銀の大きさに合わせた縦横に二本の切り取り線（あるいは一本の太い線）を鋳込んでおきます。これは、初めて作る枠で囲まれた貨幣を造るため、用意する銀片の大きさと重さの関係がよく分からなかったためだと思います。そして、大きな銀板に鋳込まれた線が二本の場合、板を横から見るとM字のようになってくるはずで、二本の線M字の幅は、おそらく1mm前後なのだろうと思います。一分銀の面が田んぼとするなら、あぜ道にあたる線があり、その両脇が盛り上がりがある、そんな感じですね。そのあぜ道の真ん中で銀板を切り、銀を長い竿状にします。さらにそれを切り分けると一分

銀の大きさの銀片ができます。切ったばかりの銀片の側面は、切り口が露わになっていますから、鋭くて危ないので、丁寧に鑿をかけて磨き、丸みを帯びさせ、最後に桜刻印を打ちます。丁寧に仕上げると、銀片の四つの側面それぞれに切り口の山が残ります。この工程を終えた銀片を刻印に挟んで、ハンマーで叩いて完成です。

このように、一つ一つの銀片を丁寧に作り、刻印に銀片を挟んで打刻することで額縁一分銀が出来上がります。日本のものづくりの職人は、今も昔も世界一優秀です。指先一つで感覚で、百分の1mmの微修正が出来るのです。よって、一分銀の製造に慣れてきて量産体制になってくると、銀板を切り分ける線も最初のM字から太い線一本となり、最後は細い線一本しか鋳込まなくても、切り分けた時の銀片の大きさと厚みで大体の重さが感覚で分かるようになったでしょう。前述した、田んぼで言うあぜ道が無くなったとしても、感覚で銀片を切り出せるようになったはずですね。

ですから、四辺に線が残っている台は激減し、当然額縁品もなくなります。もしかししたら、最後は切り取りのための線も鋳込まなくなったのかもしれない。安政一分銀や明治一分銀については、額縁品を見た事がありません。天保一分銀も安政一分銀もかなりの数を見ていると思いますが、天保一分銀の額縁はたまに見つける事が出来ました。安政一分銀では、銀片の切り分けた線が残っているものがたまに見受けられますが、銀品位が変わった時に目安として付け

られたものかもしれません。天保一分銀の銀片を切り出すのに慣れた職人が、銀品位が変わっても感覚で銀片の大きさと重さの調整が出来たのだと思われます。

また、開港で洋銀との交換を迫られ、急遽洋銀を材料にして粗製濫造ともいえる作り方をしたようですが、この時期は銀片切り分けの線も無かったのかもしれませんが、ですから、もしかししたら安政一分銀の額縁品は存在しないのかもしれないですね。

明治一分銀は、新政権を樹立した明治政府が、江戸銀座を接収して間もなく作り始めました。同じ銀座の職人が作っていますから、銀品位が良くなっても、感覚的に銀片を切り出していたのだと思われれます。必要に迫られ、急遽作った感が満ちあふれていますし、最初から量産体制を取らざるを得なかったため粗製濫造に近かったのかもしれない。このため、最初から台を切り分けるために打ち込まれた線が一本しかなかった、あるいは無かったと推察されるため、明治一分銀にも額縁品は存在しないと思われれます。



安政一分銀  
切り取り枠が左辺と下辺の  
2ヶ所に見える

## 令和「そと」話(一) 「桜満開一分銀」

気象庁の発表では、一本の桜の木で八〇%の花が開花すると「満開」と言っています。一分銀の面背四〇個の桜で八〇%だと、面背三三個の桜・逆桜が完全に刻印されていれば「満開」と言えます。ただ、面背三三個の桜が完全な安政一分銀Aa型〜Gg型までの四九種類を完集することは、この時代なら容易でしょうから、少しハードルを上げましょう。ここでは、面背の桜・逆桜四〇個のうち、トータルで三三個以上の桜の花びらが欠けていなければ、桜が「満開」とします。

ちなみに、私はこのような一分銀を「桜満開一分銀」と命名して収集を楽しんでいます。しかし、このような桜満開一分銀を探してみると、なかなか見つかりません。Aa型〜Gg型までの四九種類なら簡単に集まる安政一分銀ですが、桜・逆桜が面背で三三個以上完全なものを集めてみてください。完集するのは至難の業となり、かなり長い間楽しめると思います。

最後にあえて勝手に呟いてみます。面背に刻印されている四〇個の正桜と逆桜で、桜の花びらが一片も欠けることなく打ち出されているものは「安政一分銀、明治一分銀の額縁品」と言っているのかもしれませんが、混乱が生じるのは必然なので、やっぱりやめておきます。



「桜満開一分銀」

## 令和「そと」話(二) 「光輝一分銀」

集めやすい安政一分銀で、もう一つのチャレンジができます。それは、名付けて「光輝一分銀」。

一六〇年も前に作られた安政一分銀ですが、未使用クラスの極美品が意外にもたくさん残っており、現在のところ即売会でも普通品と変わらぬ値段で買える場合が多いです。汚れやトーンの有無を含めて、発行当初の輝きを残している一分銀を探すのは、そんなに大変な作業ではありません。そんな発行当初の輝きを残す安政一分銀をスラブに入れると、多くはMS 63〜65の数値がついて返ってきます。スラブに入れる・入れないは個人の判断になりますが、一六〇年以上も前に発行されたコインを、完末クラスでAa型〜Gg型まで四九種類完集できる可能性が高いんです。コインが違つので簡単に同列で評価できない事は承知で書きますし、年号にもよりますが、円銀の並年のMS 64の値段を調べてみてください。円銀並年のMS 64を一枚買う予算で、安政一分銀の完末クラス四九種類が全部買えます。夢があると思いませんか？

では、天保一分銀ではどうでしょう？ 天保一分銀の場合は、完集自体がかなり困難ですから、全部完末クラスで収集する事は難しいと思います。ただ、位付けが低いところ(位六〜一〇)は、安政一分銀と同様に完末クラスで集めることは可能です。

次に一朱銀ですが、一朱銀は額面が低いので一分銀に比べると、かなり流通したのだと思います。嘉永一朱銀、安政一朱銀を全部完末クラスで集めるのはかなり難しいと考えますが、面の型式A型〜R型だけを集めるのであれば、安政一分銀より難しく面白くチャレンジになること請け合いです。

最後に明治一分銀は東京太政官で製造した面B、H、J、K、Mの五種類、背b、h、jの三種類の組み合わせ一五種類、明治一朱銀はカタクグ掲載の三三種類で、MS 65が取れそうな完末クラスで完集することは、簡単ではありませんが可能と思われれます。